

特別展のお知らせ

ふしぎ大陸 南極展

(全国科学博物館協議会巡回展)

平成13年2月10日(土)～3月25日(日)(予定)

南極大陸は、未知の大陸として古くから探検家たちのロマンをかきたててきました。しかし今日では、「オゾンホール」など地球の環境問題を解くうえで、人類の未来を握る重要な観測対象となっています。また、火星起源の隕石をはじめ、南極は隕石の宝庫でもあります。

この巡回展は全国科学博物館協議会が中心となり、南極観測事業の重要性とその歴史、南極の自然をはじめ地球環境の変遷などこれまでの南極観測の成果などを通して還元することにより、南極および地球環境問題への理解を深めることを目的としています。

主催：神奈川県立生命の星・地球博物館  
全国科学博物館協議会  
国立科学博物館、国立極地研究所  
朝日新聞社  
協力：白瀬南極探検隊記念館

ライブラリー通信

ビオトープの流行

ビオトープ (biotope) という用語をご存じでしょうか。ここ10年ほどの間に広がった用語です。ビオトープとはドイツ語で生物を意味するbioと場所を意味するtopeの合成語といわれ、「動植物の棲息生育空間」という意味です。そこから「ある限られた特定の地域にもともとあった自然を回復させる」という意味で使われるようになってきています。最近では、環境教育の一環として小中学校で校庭の一隅に池を作り水草などを入れ、トンボなどを飛来させる実践が新聞などでビオトープ作りの実践例として紹介されたりしています。

このビオトープの概念、考え方はドイツから入ってきました。1970年代先進国においては過度の経済発展の追及の結果、自然破壊・環境問題が深刻な問題となりました。ドイツではいち早くその反省に立って1976年に西ドイツ連邦自然保護法、『自然保護および景域保全に関する法律』を制定しました。これを契機として、ドイツでは国家レベルでの自然保護と失われた自然の回復事業が進められ、その中で動植物の棲息生育場所＝ビオトープの整備が自然保護の施策の大きな柱となりました。

日本では70年代後半から、このドイツでの試みが学術誌等に紹介されてきましたが、一般向けではなかったこともあってビオトープという用語は広がらなかったようです。現在までにビオトープを主題にした図書は30冊以上刊行されていますが、今日のビオトープ流行の魁となったのは1990年に自然保護財団・埼玉県野鳥の会編集で刊行された『ビオトープ 緑の都市革命』(ぎょうせい)ではなかったでしょうか。この図書はビオトープという考え方を一般向けに解説した多分最初の著作で、西ドイツにおける自然保護政策の解説と実際に作られた数々のビオトープが多数の写真で紹介されています。(残念なことにこの図書は現在絶版になっています。)

わが国でも遅ればせながら1993年に環境基本法が制定されました。最近では確かに河川の護岸工事などでは以前のようにコンクリートでほとんどを固めてしまうのではなくて親水性をもたせるなど環境や自然への配慮はなされるようになりましたが、一方では残された貴重な干潟や湿地が相変わらず開発のための残存地としか見なされていないのは大変残念なことです。

これまでの日本の自然保護は、残された自然をいかに保護してゆくかが大きな課題でした。今後は自然の保護・保存と同時に無秩序な開発、都市化の過程で失ってしまった自然を、元来そこに存在した自然の復元＝ビオトープを含めて進められていくべきでしょう。そのためにはドイツのように国家レベルでの取り組みが必要となります。ビオトープの流行が一過性のものに終わることなく、日本においても国家の重要施策として位置付けられ、やがては街が緑で覆われる「緑の都市革命」が実現してほしいものです。

<参考図書>

- 『自然環境復元の技術』(朝倉書店 1992)
- 『ビオトープの基礎知識』(財団法人・日本生態系協会 1997)
- 『環境を守る最新知識』(信山社サイテック 1998)
- 『ビオトープ教育入門』(農山漁村文化協会1999)
- 『学校ビオトープ事例集』(トンボ出版 1999)

(司書 内田 潔)

催し物のご案内

博物館ボランティア体験講座

「学芸員の仕事」[室内実習]

当館ボランティアの入門として、博物館の仕事、おもに資料整理(キュレーション)を希望分野別に体験します(あつかう資料は各分野様々です)。

日時/2月1日(木)・2日(金)・6日(火)・7日(水)・10日(土)  
全5回 10:00～15:00

講師/大堀哲 氏(常磐大学コミュニティ振興学部長)※大堀氏の講義は10日。

対象/一般 分野ごとに各5人  
分野/古生物・ほ乳類・魚類・貝類・昆虫・菌類の6分野

申込/12月26日(火)～1月16日(火)  
※申込み時に希望分野をご記入ください。受講者は、引き続きボランティアとして活動することもできます。

神奈川の自然を歩く(5)

「冬の樹木観察」[野外観察]

冬芽を観察して、樹木の見分け方を学びます。

日時/2月16日(金) 10:00～15:00

場所/博物館周辺

対象/一般30人

申込/1月9日(火)～30日(火)

研究テクニック講座

「貝の形をしらべよう」[室内実習]

身近な二枚貝(ホタテ)や巻貝の貝殻を材料に、その姿や形のおもしろさを考え、大きさ比べにもチャレンジします。

日時/2月17日(土)・18日(日)

全2回 10:00～15:00

対象/小学生～大人30人

申込/1月16日(火)～2月6日(火)

博物館スクール

「日時計をつくろう」[室内実習]

春分の日にあわせて、日時計の原理と作り方・使い方を学びます。

日時/3月20日(火・祝) 10:00～15:00

対象/小学校高学年以上20人

申込/2月13日(火)～3月6日(火)

博物館スクール

「動物の行動観察」[室内実習・野外観察]

動物の行動観察の方法を学んだのち、実際の観察に挑戦します。

日時/3月27日(火)・28日(水)

全2回 10:00～15:00

場所/博物館と近隣の動物園

対象/小・中学生20人

申込/2月20日(火)～3月13日(火)

申込方法

往復はがきに、催物名、住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、博物館宛てにお送りください。

ご家族など数人でご希望の場合は連名でお申し込みになれます。特に記載の無いものは参加無料です。応募多数の場合は抽選となります。当館のホームページもご参照ください。

http://www.city.odawara.kanagawa.jp/museum/g.html